

農協の優良事例（JAけねべつ）



購買事業における高い系統利用率

- 肥料・資材の推進を2ヶ月に1回程度実施。四半期に1回は各農家を定期巡回
- 飼料や牛の状態を踏まえ、TMRセンターについては2ヶ月に1回、ホクレンと共に定期巡回
- 青年部を中心に、土壌分析を実施。分析結果を基に講習会や肥料推進を実施
⇒ 上記取組の効果もあり、飼料は約7割、肥料は約9割の系統利用率を実現

酪農新規参入者の確保・育成

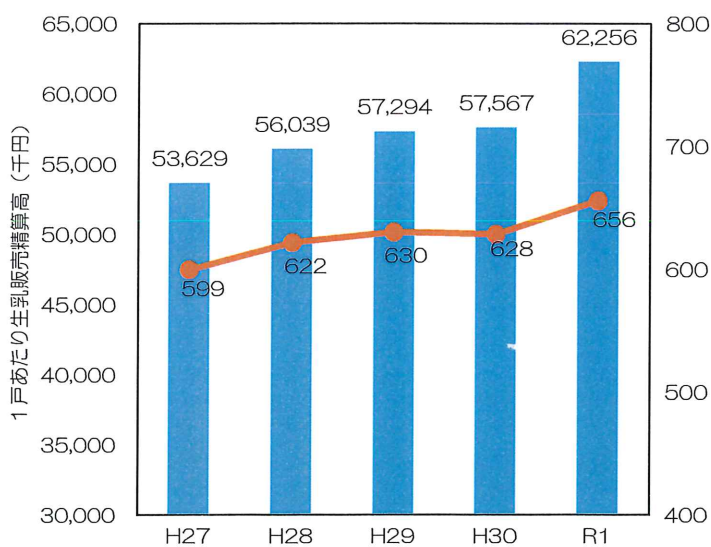
- 離農予定者の施設や土地を把握し、引取り手が無い場合は農協が新規参入者を探す。
- 地域においても、離農後の施設・土地活用を話し合う「アクティブ会議」を開催
- 新規参入者の半数以上がTMRセンターを利用。初期の設備投資軽減、経営における安定した粗飼料確保や労働力軽減により搾乳作業への特化を実現
- TMRセンターの利用や農協の営農指導の効果もあり、新規参入者の個体乳量が高水準を維持している。

組合員に向けた取組

- 組合員の健康管理の取組
 - ・ 人間ドックの受診推進
 - ・ 医者に地域へ赴いてもらい、インフルエンザ予防接種を実施
- 2019年4月子育て支援施設『えみふる』開設。
子育て世代の女性酪農家が農作業に従事する時間確保に寄与

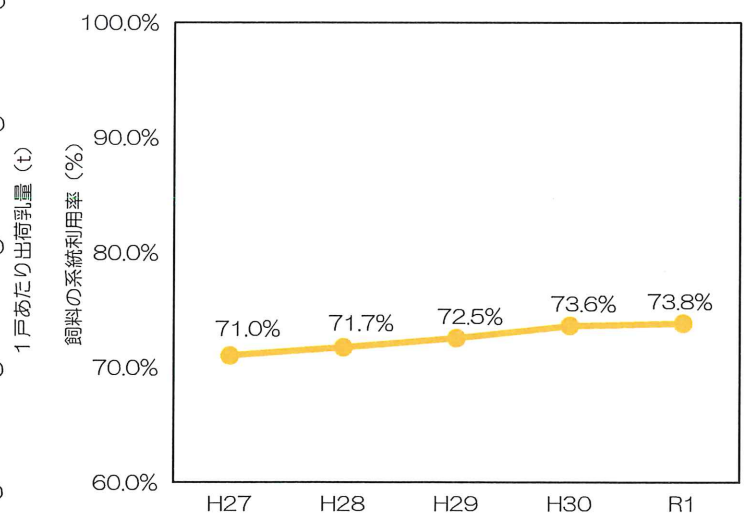


< 1戸あたり販売精算高及び出荷乳量 >



ここ5年間で
 ○ 1戸あたり生乳販売精算高 **1.16倍**
 ○ 1戸あたり出荷乳量 **1.10倍**

< 飼料の系統利用率 >



ここ5年間で毎年系統利用率が伸びている